

2026年

梅まつり俳句優秀作品

芝 喜久子 選

特選

梅が香や煤けつやけき土間の梁

横浜市

岸本

圭舟

評 土間のある昔の府中の民家。古民家になっても、なおも艶のある梁、

煤けがいつそう、艶を際立てます。庭には梅の花が。

梅の香に白杖二本寄り添ひて

多摩市

杉浦

孝子

評 白杖のお二人が梅の香を楽しまれてゐる様子。

幸せなゆったりとした景色が浮かびます。

ひと味を添へる梅の香昼餉時

府中市

勝浦

東舟

評 梅見を楽しまれ、それぞれの昼餉時。

梅の香の中、昼餉がひとときわ美味しくなりました。

はけ団子手に持ち歩く梅日和

府中市

加藤

政美

評 風の無い青空の下、園内で販売されている香ばしい団子を手には梅見を楽しまれ、

まさしく梅日和。

影絵めくライトアップや梅真白

日野市

西尾

京子

評 夜の梅を楽しまれたのですね。

ライトアップされた園内はさぞ幻想郷だったことでしょう。梅の白が際立ちました。

佳作

春寒や葺家の床の黒光り

横浜市

豊田

英男

白加賀の白極まれり梅まつり

府中市

山田

節子

母は茶屋しばし独りの梅見かな

練馬区

碩

真由美

青空へ溶け込むやうな梅の白

小金井市

玉井

真由美

梅が香や郷土の森の日の温み

府中市

福江

洽一

思ひ出す祖母と見た梅繋いだ手

墨田区

池奥

啓太

幼きも母の背で嗅ぐ梅の花

府中市

久保田

謙三

思ひのまま生きたき余生梅開く

府中市

飯田

愛子

梅に手の届くところへ車椅子

川崎市

竹内

幸宏

うめまつりきれいなうめをたのしむ日

日野市

前田

唯子

(小三)
(敬称略 順不同)

【芝 喜久子】

府中市在住。

市村究一郎に師事。俳人協会会員。

